

輝北町園芸振興会「ごぼう部会」と市長との「“本気”で語ろう会」 会議録

団体名	輝北町園芸振興会「ごぼう部会」
日時	令和元年5月8日（水）18:00～19:40まで
場所	百引校区公民館ホール
参加者	ごぼう生産者 8名
	市長、輝北総合支所長、農林水産課、輝北総合支所産業建設課 ほか

意見交換

輝北地域の農業の現状と課題、今後の展望について

- ・ごぼう生産の現状・課題について
- ・ごぼう作で、どのようなIoT、ICTに取り組めるか？
- ・農業振興のためのアイデア提案

【ごぼう生産者の意見・要望等】

○連作障害について

- ・10年ほど前からごぼうを生産しているが、5～6年前から収量や品質の低下があり、これも連作障害の影響だと考えている。カルシウムやアルミン等の土壌添加剤の使用も試験的にしているが費用もかかる。

○耕種（園芸）農家に対する支援制度について

- ・連作障害を解消するためのトレンチャーや深耕ロータリー等の農業用機械の導入費用も高額であることから、耕種農家向けの補助制度を市で構築してほしい。
- ・国や県の既存の助成制度は採択基準等でなかなか対象にならない。農業機械導入に対する助成制度等についての情報があれば農家に対して、市は情報発信してほしい。
- ・農家に対する支援制度は畜産と耕種のバランスが悪いと思う。畜産部門からすると10分の1もない。耕種農家の後継者が少ないのもそこに要因があるのではないか。
- ・農業機械の共同利用については、播種など利用時期が重なることから難しい。
- ・農業公社の機械利用については、小規模農家からの利用希望への対応が主となっており、現状の機械台数ではなかなか順番がまわってこない。
- ・畜産関係団体には市からの助成があると聞いているが、輝北町園芸振興会への市からの助成がない。

○農地集積について

- ・連作障害を避けるための耕畜連携を進め、農地のローテーションを図りたいが、条件の良い畑はほとんど利用されて思うように進まない。

○農道について

- ・ごぼう畑は、トラクターを頻繁に入れる必要があるが、輝北地区の農道は昔の道路を使っているところが多く、大型機械を導入しても道幅が狭いため支障をきたしている。

○その他

- ・ごぼうへの鳥獣被害については、ごぼう自体への被害はないが、一部ビニール被覆の破損などがある圃場もある。

○人手不足について

- ・以前、市のチラシでボランティア募集の話もあったが、応募してもなかなか来てもらえない。シルバー人材センターでもなかなか人手が集まらない。
- ・除草作業は人手を必要とする。また収穫作業も堀取りは機械で行うがコンテナ詰めなど人手が必要である。

【市長】

○連作障害を防ぐ手立て、耕畜連携で畜産農家の飼料畑とのローテーションなど検討できないか。

○連作障害に対しては、土壌診断（良い畑と悪い畑の比較等）など科学的な対応・対策を試していく必要がある。

○ごぼうの産地化にあたり、連作障害が大きな課題であれば、大隅支場や関係機関と連携し、研究していくことが重要である。

○農業機械については、補助制度が色々あるので勉強したい。ただし、攻めの農業を考える場合、補助金ありきの状態は打破していかないといけない。

○産地として生き残るための方策を模索する必要がある。

○輝北地区は、ごぼうが露地野菜のメインであると考えている。

○人手不足は、大きな問題だと思う。農援隊制度があるが、なかなか活用が難しい面がある。シルバーや公社に頼らず、解消する策も検討していかなければならない。

○農道整備については、水土里サークル活動を考えてみても良いのではないか。

○ごぼう農家の規模拡大が難しい中で、輝北の所得向上、輝北の発展のためには、ごぼうの輝北産地ブランド化（品質向上）が重要である。

○取引価格は安定しているが、コストが高いと感じる。所得を上げるには、コストをいかに下げるかが重要になる。

○畑で選果した農作物で、A品だけ出荷してそれ以外は捨てているがもったいない。何か活用方法はないのか。

○輝北は、農業の町である。ごぼうも花も畜産も稼げるようにしていかなければならない。また、山も多いので、山を稼ぐ手段に出来ないか検討して欲しい。

○本日は、課題も出された。課題に対して、市、県、農協が連携し、整理して働きやすいように取り組んで行かなければならない。